



集歌ア、夕 歌 渡辺 の女

特216

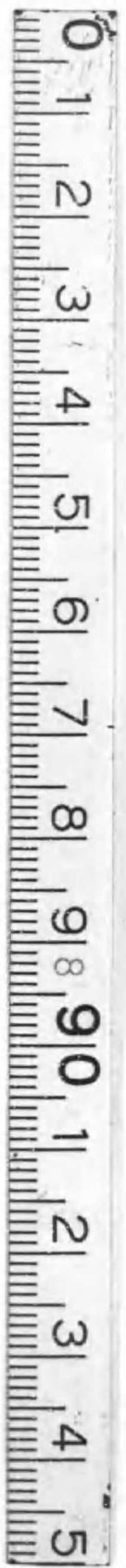
613

427

青郎楠本植



版堂玉紅



始



娑婆の歌

榎本楠郎著

特216
613



無産者歌人叢書
東京・紅玉堂版

娑婆の歌 目次

村の人々……………三
亡き子の百ヶ日忌に……………八
獄中の友へ……………一五
泪を含めて……………二三
小作人の歌……………三〇
何が普選だ！……………四一

赤いどら	………	四
母	………	五
見透しはついてらあ!	………	六
弾丸よけ	………	七
行軍の兵士	………	八
トロッコ押し	………	九
線路工夫	………	一〇
公園のロハ臺	………	一一

廢	兵	………	一五
早	魁	………	一六
思	出	………	一七
思	ひ	………	一八
時々の歌	………	一九	
検	束	………	二〇
卷	末	………	二一
卷	末	………	二二

プロレタリア
歌集

娑婆の歌

村の人々

親も子もみんな揃ふて日傭稼ぎだ銀さん
の子が畦で泣いてる

雨傘あまがささして親の日傭ひよの終るのを銀さんの
子は哇わで待つてる

喜多公きたこうは種たね籾もみまでも食たひつくし酔よつて裸はだか
體たで池いけに死しんでた

ひとり者のお清きよ婆ばさんは、あはれなもの
よ、床板ゆかいたまでも外はづして燃もしてた

村の者がなんにもかにも持ち寄よつてお清
婆ばさんの葬式お葬式をする

藍だ蘭だ、いや芋だ薄荷だとあわてまわ
る、それでも食へぬ百姓なんだ

6

宮だ寺だ、なんだかんだと云はれては寄
附に泣かされてる村の人々だ

電燈で田植もしたといふ地主、金で電気
も光る世の中だ

7

亡き子の百ヶ日忌に

在りし日のわが子ヌミレを想ふ

ふつとしては殺したわが子を思ひ出す貧乏のため殺したわが子を

8

上の子の着古しをさへよろこんでた、あの子の顔が今も目にある

9

飛行機に乗せて乗せると空を見ては手にはぶら下る女の子だった

ちよこちよこと赤いポストによぢのぼり
ハガキを入れては中をのぞいてた

10

よろこんで使ひ走りの自轉車の尻につ
けて貰つてたわが子だ

口笛でメーデー歌などうたつてた六歳の
あの子思ひ切れない

11

お湯に行つても口笛吹いて歌つてた人に
親しむ可愛い子だつた

お湯に行けば必ず香せなかを流してくれた石シヤボン鱈
いちりの好きな子だった

12

浦島の話聞いてしばらくは遊びに行く
のを心配してツたけ

死んだ時に花束持って知らぬ子がうちへ
やつて来て泣かされた俺達だ

13

一枚の鹽せんべいでも等分に俺等にまで
もくれてた子だった

貧乏があいつをまでも殺したのだ！ 妻
よ、やつぱり敵は一つ者よ

14

獄中の友へ

同志仁×二郎に

ダイナモは破裂するまできれいなもんだ
君を想ふ時なんだかそんな連想が胸に來
る

15

昔から鼠とる猫は爪をかくすと云ふ全く
君はそいつだつたのだ

16

僕にさへあの事だけは明かさなかつた。
その男らしさを俺はよろこぶ

眞の勇者はだまつてコツコツやつてゐる
空^カ元氣ばつかりの手めえ等ちつとは恥ぢ
ろよ

17

おとなしい顔をして、それでほんとうの
仕事をしてゐる者こそ尊いのだ、景氣の
いい掛聲ばつかりが何になる

黙つてやらうよ今こそおいらの根を張る
時だ鳴りをしづめて鼠でも子を産む

18

数十日のひどい責^せ苦^くに何一つ吐かずに堪
えた君をみんなはよく知つてるぞ

貧乏で死んで逝つた俺の子に心から掌^てを
合してくれた君の姿が今も眼に浮かんで
来る

19

イザと云へばほこりのやうにすつ飛んで
しまふ、そんな奴等とは彼奴はちがつて
たぞ

景氣のいい事は、ちつとも云はなかつた
彼だつた彼こそ今何をなすべきかをよく
知つてたのだ

逮捕されるまで親も仲間も知らなかつた
まさか彼があんな要職に就いてゐようと
は

差入れも思ふやうには出来ないが君の意
志だけはつぎたいものと思つてゐる

あの小父さんはこのごろちつとも來なく
なつたねと僕の子供さへ君のことを云ふ

君の手にぶらさがつて遊んだ僕の子も貧
乏ゆへに死んで十月目だ

22

泪を含めて

ブルの子に貴様負けて歸つたのかと振り
上げた手を、そのままそつと頭にのせて
やる

23

見るものごとがほしいさかりの子供なんだ、さう思つて今夜の湯代を手に握らせてやる

24

お前の親のこの貧乏を忘れるな、ころがり出た子を蒲團の中に抱きこんでやる

一匹のさんまを親子三人で、つついては食ふ雨の降る晩

25

お婆ばかり食べるからだと言ふ、なるほど大きな子供のお腹なかだ

この子さへ貧乏なことを知つてるのか買
へとせがます借りてつく鞠

26

米のところばかり箸で拾つて含ませるわ
が見の口の二本の乳齒

寝る前に毎晩一度は抱いてやる大きい奴
も小さい奴も

27

病臥てをれば可愛いやつよ茶をくんでこ
ぼしこぼしでも運んで来てらあ

ゴリゴリと骨を粉にする思ひぢやないか
米櫃の底を舂まきでかく音おと

28

拾へとは云はないけれど、ひもじいのか
壘の飯でも拾つては食ふ

學校の本なんかみな嘘ばツちだ大きな聲
で讀むのだけは止してくれろよ

29

小作人の歌

米も麥も酒も醤油も酢も鹽もみんな買は
ねば食へねえ小作だ

30

子のために今日の稼ぎで一匹の鹽さば買
つて妻と喧嘩だ

31

田にしなど拾つて来ては煮て食はず營養
不良の親や子供に

手の腹のまめをキリキリ咬みながら地主
の家をぢいつと凝視める

32

忙しさに言葉もついに荒くなる母を叱つ
た後の心さびしさ

目の前に出された菓子を手もふれずに子
にやりたいとしみじみ眺めてる

33

遠大も深遠も糞もあるものか、いかに食
ふかの今日の問題だ！

穀物と土と肥料こやしの匂ひのみだ、だからと云つて、どいつが馬鹿にするのだ！

おとなしくしろよと云つても聞けアしない、飯だと云へばドンドロ騒ぎだ

野良歸り蚊柱の立つ草道にやや落ちついて小便をする

星祭り胡瓜の馬や茄子の牛これも子供のために拵こまへる

七夕紙たなばたがみに書くこともなく手を引いて子供
に書かす「ヂヌシ ノ バカヤロ」

やれ舞だ菖蒲だ盆だ祭だと、ただその時
に米飯こめいを食ふだけだ

男一匹だ、この畢丸ひまるのきれ落ちるまで、畜生
おいらはへこたれるこつちやねえ！

夜祭よまつりの社やしろの庭にビラを撒く、奴やつの頭をね
らつて投げつけたのだ

飴賣に金のかはりに麥を出す女房の顔に
夕陽タヨリが赤い

一升も六七合の價あたいへなんだ金のかはりに
米麥を出せば

忙しさに日も、ひよつとすれば月さへも
忘れて暮すおいらの生活くらしだ

なんのためにかうして生きてゐるのかと
仕事の暇ひま々に物思ひする

情ねい男だ、俺だ、しつかりしろよと、
子供の喧嘩を見ながら思ふ

何が普選だ！

代議士の立候補にさへ金を見せろだ、ま
るで××は博突場のやうだぞ

何が普選だ、金・性・年齢、それに住居にまでもひどい制限があるぢやねえかよ

一から十まで金持を威張らすやうに仕組まれてる世の中だ、おいみんなしつかりしろい！ 奴等を威張らして置いていいのかい？

清き一票か、へへッごまかしちやいけねえぜ、おだてともつことにや減多の事ぢやお乗りにならねえッてことよ！

食はせものの無産候補なんか投票するまには、いつそ棄権した方がまだ階級的さ

生命いのちがけの闘士以外に投票するな俺たち
ア俺たちだけの覺悟があるはずだ

44

供托金なんか無けりや無くつたつていい
ぢやないか俺たちア俺たちだけの代表を
選ばばそれでいいんだ

代議士なんか三人や五人送り出したところ
で結局あんな所だけで何が出来るよと云
んだい

45

今のうちだ金で議員になれるのも、まあ
精々威張つて何とでも云つとくさ

「當選御禮」自動車飛ばしている機嫌さ。
どいつもこいつも酔っぱらひやがつて

46

「萬歳！」「萬歳！」だ？ うまくおだてて
ごまかしやがつて、さぞ貴様たち悦しい
だらうな

情ねえのはなんにも知らねえ小市民さ選
舉でバラ撒く金に自分も潤うるほうやうに喜
んでやがる

47

情ねえ小市民どもだ「當選御禮」の自動車
に歡呼の聲をあげてけつかる

俺たちのほんたうの力を示すことア、あんなお役所の紙ツ切れに三字や五字の字を書いて来るこツちや有りやしねい！

赤いピラ

第×次普選の時××黨被告達が獄中から立候補したといふピラが工場地帯に貼りまはされた。

赤いピラだ獄中にある被告等が公認候補で立つたと云ふのだ

度^ニ膽^ヲを抜くだらう判いでも判いでも出て
来る赤いピラだ、これでも×××××××
×××××××

久しぶりに姿を見せた赤いピラだ労働者
たちがちつと見てゐる

プロレタリアを××××ピラだしみじみと
朝の寒さに突つ立つて見る

母

くにに病んでる母へ見舞の金山寺味噌だ
齒のない母の顔が見えてくる

柚子ウズの皮に味噌をつめこんでいつもいつ
も焼いては食つた俺のおふくろだ

俺を抱いて土蔵ドクラにほうりこんだ母だつた
が今ぢやすつかりおいぼれてしまった

お前のために苦勞もして來た生きても來たのだと、いつも勵ます俺のおふくろだ

54

死ぬまでにたつた一度でいいあの母へ、
のんきに飲み食ひさせてやりたい

俺のことをいつも云つては泣くさうな、
そのおふくろは六十四か五だ

55

懸竿かきまきの寝まきが晩にはとれぬといふ、
晩には腰かがが屈みつくのだ

悪いことをしてるのぢやないと知つてる
くせに、牢屋へだけは……と、いつも云
ふ母だ

もうあれだけの、おいほれた母だ、なん
にも知らさず死なしてやりたい

佐倉宗五郎のあの話ならよくわかる母だ
俺が宗五郎様になるのだ云つたらニヤニ
ヤしながら頷いたつけ

見透しはついてらあ！

おおさうよ。おいら百姓よ食へねえさ！
だがよ兄弟、手もあらあ口もあらあな！

58

イザとなりや體一つが×××よ！ ねえ
おい兄弟、見透しはついてらあ！

59

あきれたね、××が居るツて××が？だ
がよ手前等そりやどつちのもんだい？

なんと云つても眼覺めたからにや、こつちのものよ、××はどつちへでも向けられるもんだよ

60

へこたれるな、へこたれるな、なんと云つてももう一押しだ！ 錆ついでるので、離れきわがよくないまですよ

棺桶にや、×い旗に包まれてよ、ねえお
い兄弟みんな行く覺悟だぞ

61

理窟ぢやねい！もうかうなりや力と力とだ、露ッ、味方なら来てここへ力を注げ！

食ふや食はずで尙ほ生きようとしてるの
は、みんな或る日^を待つてゐるためだぞ

弾丸^たよけ

××××女房よ子供よ手めえ等も生き
るも死ぬるもおいらと一緒だぞ

××に女房や子供の起つ事だけでもそれがどんなに力を増すことか！

死んではならぬ、いざと云ふ日はお互ひに味方を守る××××ともなる！

女房よ子よいざと云ふ日はお前等も××××となる覺悟でをれよ

年寄も子供も女房もみんな共においらはおいらの×××××

かるはづみなお先走つた眞似をするな、
じみな闘ひを最後までつづけよう

66

いざと云ふ時直ちに×××××起つ眞
の仲間をだまつてつくらう

だまつてゐても俺の肚はちやんと決つて
るんだ、仲間よ、ちや、生命があつたら
また會はうよ

57

行軍の兵士

大きな聲で歌をどなつて兵隊が行く、や
けくそだらう、あれちや全くたまらんか
らな

68

あんなにして人間が人間を飼つて置くの
だ、まさかの時の××××のためだ

69

いやでもおうでも男ならあんなにされる
んだと思や全く若い者ア×××××××
×××××××になるのも無理はなからう
よ

ともかくも今ちやあれで通れるのさ××
や金持の子が××で威張つてさ

70

小便が出たくなつても腹がすいても兵卒
ア行くところまでアつれて行かれる

しやれた格構かくこうをして馬に乗つて行く若い
士官足を引きづつて黄塵わうじんを浴びて行く多
くの兵卒

71

靴で蹴られピンタをやられ二年勤めてや
つと上等兵か一等卒、違つたものだ、×
×様アその間に少佐殿だつてよ

何も彼もかなぐり捨ててへたばつてやれ
だだつ子のやうに、×××××

トロツコ押し

尻つびり腰でも全くおつつかねえトロ押
しだ三百ヤードの急勾配きゆうこうはいと来てゐらあ

ブレイキの丸太ン棒が生命の舵よ油断を
すれア。あツと云ふまに生命はトロの下
敷さ

74

西瓜みたいに顔半分はなくなつてた秋田
生れの脚氣のおやぢさん

棒頭^{かんまぐ}は牛馬をひつばたくよりはましだと
ぬかす。さうよ。だからこそこちとらは
團結だつてして見せるんだい

75

シヨベル・スコップ・鶴嘴。今はおとなしく
土堀る道具さ。だが明日の日はわからね
えよ

土運び、エンヤラエンヤラ、トロを押す
今にあいつ等もかうしてくれようぞ

傷口きぐちは小便で洗ひタバコを食はず、なん
の土工に医者や薬はいらねえとおつしや
る世の中さ

生傷なまきずの絶えねえ體で働くのだ、お医者さ
んよ、ぜいたく野郎にや、おいらの鼻囊
でも丸薬にして飲ましてくれよ

朝々の小便臭い味噌汁にほつと疲れを思
ひ出すこともある

おいおいと朝鮮土工が泣くんだぞ泣くの
を面白がつて奴等はひつばたくんだぞ

78

兄弟、もう少しの辛抱だ。がんばつてく
れよ。おいらも今に一族擧げるからな

兄弟、情ねえのはお互ひさまだ。だがそ
いつア泣くこつちやねえ。起ち上ること
だ。みんな一しよに起ち上らうよ！

79

線路工夫

何萬哩マンリの鐵道線路があるからつて××を
するない、そいつアみんな俺たちのもん
だよ

80

釘一本で裝甲列車もはねかへせるんだ。
へへッさうまあ工夫だつて馬鹿にするな
よ

ジタバタしたつて来る時が來りやお陀佛
さ、それまで勝手にやらして置けよ

81

どうせいつかはおいらのもんだ、こらエ
ンヤーカーラ、さあも一つエンヤーカー
ラア

公園のロハ臺

まよ夜半の公園のロハ臺——スツクと立つ
て一人の男が帽子ふりふり喋しゃべり出した

帽子ふりふりま夜半の公園で喋る男。寒
さと餓さとのために、その帽子をいくら
にでも賣らうと云ふのだ

廢兵

歩きたんびにギシギシきしむ俺の義足だ
だがよイザと云ふ日にや、じいつを外し
てXXXXXXXXXXXX見せらあ

誰のためにこんなに手足をもがれたのか
食へずに俺らは藥賣をする

86

行かぬ先から御断り札がチャンと出てゐ
るので御念の入つた家ぢやねえかよ

子供の奴等ア、なんにも知らず戦争ごツ
こだ、おいこら子供達このおぢさんをよ
く見てくれよ

87

ハガキ一枚で××××××××××××××××
××××××××××揚句の果ては名譽の×
×かこの俺様かだ

だまされて死んだ奴等はまだ幸ひさ俺等は
は義足を吊つてこの通り苦勞してゐる

88

一本の足が、いくらになつたかと時々は
胸勘定をする事もあらあ

日が沈む廢兵院は名ばかりで俺等は一
度も厄介にはなれねえよ

89

早 魃

一九二三年の早魃は、殊に中國の山間の農村はひどかつた。僕たちはそこで野良犬のやうな生活をした。

90

早魃に心も狂つたのか、百姓が炎熱の巷を、ワツシヨイ／＼神輿を昇いで走る走る

ワツシヨイ／＼神輿を昇いで火を焚いて
眞夏の眞晝に雨乞をやるんだ

91

雨乞のために割腹して死んだ年寄もある
さうな、それでもやつぱり雨は降ること
ちやねい

坊主も神主も毎日引っぱり出されて雨乞だ、祝詞や經文が役に立つなら、こんな時にこそ役立てて見せろ！

92

日頃養つてある神様だ、こんな時に役に立たぬやうなものなら踏みつぶしてしまへ！

神主だ坊主だなどとぬかしやがつて、な
んでい、なん日祈禱したつて雨は一滴も
落ちて来ねいちやねえかよ！

93

情ねえ量見だ、盗人よけに貼りつけた果
樹の幹の弘法大師の繪像だ

色刷りの弘法大師の繪を貼つて盗人の脚
を曲れと斬つとるのか

94

雨乞もだんだんひどいやり方になる、雨
降り地蔵を池に沈めた

雨を降らせれば池の底から引き上げてやる
と云ふのだ、雨降り地蔵も情なからう

95

酒を賭けて寄るとさわると雨の博突だ、
雨さへ降ればと、みんなの心は一つ願ひ
だ

いつそのこと海賊にでもならうかと、つ
づく早魃^{ひでり}を嘆く日もある

かうなればとにかく腹のへらぬやうにぢ
つとしてると云ふ人もある

働くに働く仕事もない世の中だぞ、おい
村長さん、寝言の言ひさしはやめてくれ
おいらの腹は物を食はねばふくれねえの
だよ

「願免租」の札を立て立て田をめぐる大正
の御代の、おいらあ貧しい小作人だ

一株ごとに土瓶で水を注いでも見たが稻
はやつぱり、たうとう枯れてしまつたの
だ

牛に飲ます水までたうと無くなつたのだ
風呂の湯を洗濯につかひ、そいつをまた
牛に飲ませる

猫でもいゝ一匹殺せば一日はたらふく食
へると思ふ日もある

しみじみと親や子供が厄介に思はれる日
である。今日もやつぱりカンカン日が照
る

堀も池も土間より固くひび破れて死ぬに
死ぬ水もないと笑ふお秀婆さん

100

官林の松さへ所々枯れかかつて、たうと
う夏も終りに近づいた

官林の猿や狐も出て来たさうだ立りっしゅう秋間近
かのさびしい村里だ

101

ひよろくと谷に出て来た野狐を生捕り
にした噂もひろがる

井戸端で水の溜るのを寝てゐて待つのだ
村の共同井戸は夜つびて喧嘩だ

102

小半里こはんりも水汲みに行つて來ればもうお午ひる
だ、水汲みだけが毎日の仕事だ

強いやつだ蟬ばかりは元氣に鳴いてや
がる何がうれしいのか辯にさわらあ

103

ひぐらしが森でしづかに鳴きだした、や
れやれ、まあ……今日だけは經たつた

「願免租」と書いた。その立札が脊の低い
枯れた稲田の中にニヨキ／＼立つてる

104

「願免租」その立札にそよ／＼と初秋の風
が吹いて流れる

役人が免租調べに来るさうな、そんな噂
で夜も更けて行く

105

立枯れの稲に交つた「願免租」広い田圃に
秋の風が吹く

生きた鶏を脇にかかへて米を借りに行く
人もあるのだ早魁はやけいのためだ

思ひ出

ぼろぼろにこわれて出て来た赤い珠たまの小
學時代の可愛いそろばん

ちやんとおしよなんて小叱こごを云ひながら
ちんぽちんぽこを指ではねなんかした俺の母だ
つた

108

あの頃の仲間みんなバラバラに村を出
たきり行衛も知れない

偉い者にならうと思つて學校の行き歸り
にも本を讀んだけ

109

雨の日も牛をつれ出し傘かささして村の野道
で本を讀んだけ

牛の眼に俺の姿も手の本も今に小さく映
つて見える

時々の歌

ひよつとするとどうしても自分の年齢が
思ひ出せねえことがある、そんなにまで
働きぬいてもやつぱり食へねえ世の中な
んだ

一體いつになつたらこいつがおつびらに
讀めめるんだらうと發禁の書を見るたび
思ふことよ

112

逃げ道を考へながらピラを貼る可愛い子
供だ莫迦にはならねえ

ゾツとするやうなピラがおつびらに貼ら
れてある驛前通りの電信柱に

113

踏切の黒い木柵のあちこちにもやつぱり
そのピラが貼つてある、ある、

金持の子供を見れば憎くなる貧乏のため
亡くしたわが子だ

114

貧乏では人間の子さへ犬猫の病院にさへ
やれない社会だ

のほほんと、のんきに暮す奴を見れば一
つからはして逃げてやりたくもなる

115

どうなるか今に見てをれ待つてやがれ喪
切者よ反動××よ

どつちみち食へぬえものときまつてりや
おうよ兄弟、覺悟もあらあな！

116

百姓で食へずに出て来て三年目、たうと
う子供を一人佛にしてしまうた

ふとしては死んだ子供の夢を見る、その
朝の不機嫌さ、女房よとがめな

117

つきつきに引つばられて行く同志らよ残
つた奴等も一生懸命だぞ

××とおまんこばなしをする時だけほん
とに若者らしい顔をする仲間たち

118

おふくろも今年中には死にさうだと中風
の父の書いた手紙だ

どなる事は、もうよい、もうよい、だん
まつて、やるべき事をみんなでやらうよ

119

ねばり強くよく生きてると思つたら、あ
いつたうとう肺をやられた

内閣が何度變らうと同じことよ、どうせ
おいらの××ぢやなし

120

内閣が變るたんびに今度こそ景氣がよく
ならうと信じたがる馬鹿者もある

永いこと虫を殺して我慢して握りしめて
るおいらの拳こぶしだ

121

死ぬことを覺悟の上で××をとるあの蜜
蜂だおいらの仲間は

一か八かどつちにしても避けがたい鉢合せする日は刻々迫る

検 束

検束のトラックが勢ひよく駆けて行く新しい世がついそこまで近づいて来てゐる

鈴なりに闘士が積まれて行くトラックだ
みんな拳こぶしを握つて見送れ

巻末に

私が最初に歌を作つたのはたしか十二の歳としだつたと思ふ。
國語か修身かの時間に、「實るほど頭かしこは低き稻穂かな」といふ
「俳句」といふものが出て來た時、それと一緒に「和歌」とい
ふものを教師が教へてくれた。そして次の國語か修身かの時
間までに、何かみんな一つづつ作つて來いと命じた。その時
の作品は全然忘れてしまつて記憶にないが、私の作品が他の
二三の友達作品と一緒に、黒板に書かれた事だけは今もよ
く覚えてゐる。

それから二十年、私はいろ／＼の生活をしながら、その暇々に數千の歌を作った。今手許に残つてゐるものだけでも三千近くある。だがその多くは啄木流の生活を歌つたもので、所謂プロレタリア短歌ではなかつた。プロレタリア短歌は、去年の暮からの試作で、ここに集めたものの一部が、殆んどその全部で、他は舊作のそれだ従つて私はまだ甚だ未熟だ。その事をよく知りながら、何故私はこの集を纏めたかと云ふと、この叢書はまだ數冊しか刊行されてゐないのに、既に二冊まで發禁の厄に遭つてゐる。放たれた矢は途中で斬り落されたのだ。私は同じ陣營に在る同志の一人として、それを

見てぼんやりしてはゐられなかつた。たとひ腕に自信はなくとも、少しぐらゐ矢の根が曲つてゐようと、もう我慢はしてゐられない。私は同志のあとをついで弦を引いたのだ！
同志諸君！ 刻々に戦ひは白熱化して来る。用意はよいか？ 武器を磨かう！ 藝術の武器を！
では諸君、戦ひの中で、また、めぐり會はうよ！

一九三〇三月中旬

府下吉祥寺にて

榎本楠郎

目録進呈

昭和五年五月廿五日印刷
昭和五年六月廿五日發行

歌集 娑婆の歌

〔定價金五拾錢〕

著者 棋本楠郎

合資會社紅玉堂書店代表社員

發行者 印刷者 前田隆一

東京市本郷區森川町一番地

東京市本郷區森川町一番地

發行所 紅玉堂書店

振替東京二〇六六五番

刊月

短歌雜誌

◇歌壇通有の弊弊と情實を排し◇
◇飽くまでも不偏不黨主義◇

編輯者はみな當代歌壇の名家及び文壇の諸家にして、短歌に關する一切の記事——短歌の作法、評語、歴史、諸名家の近況、歌壇の批評等を掲載す。
一冊 五十一頁 六部 三十四六錢
二部 一冊五十三頁 十二部 六十四二錢
(送料共)

刊月

プロレタリア音楽の詩

★見よ！プロレタリア音楽に對抗して生れた日本一の左翼音楽誌★
★讀め！プロレタリアの詩を全身の血は躍るべし★

一ヶ月 二十一頁
三ヶ月 六十三頁
半年 一冊二十六頁
一年 二冊五十二頁
(送料共)

刊月

新興文藝

◇新時代の文藝入門者の雜誌◇
◇新文壇の諸傾向を綜合統一◇

編輯者は當代文壇の名家及び新進の諸家にして新しい讀物、新しい議論、新しい研究に依つて本誌は飾られた。
一ヶ月 二十六頁 半年 一冊五十六頁
三ヶ月 七十八頁 一年 三冊十二冊
(送料共)

紅玉堂文庫

出版の言葉
小さくとも纏つた著作を集めて低廉な價格と携帯に便利な書物を作りた。いと思ひました。そして得るに従つて續々刊行するといふ方針です。故に豫め何が出るに豫め何が出るといふ豫告をしませぬ。追々に此文庫の冊數が増んで行き、百になり千になつてゆくうちに本文庫の眞價が明瞭になることと思ひます。(紅玉堂主人謹白)

- 現代名歌評釋 松村英一著 定價金五十錢 送料金四錢
- 明治歌壇概史 尾山篤二郎著 定價金五十錢 送料金四錢
- 歌はかうして作る 尾山篤二郎著 定價金九十錢 送料金六錢
- 獨歩詩集 國木田獨歩著 定價金七十錢 送料金六錢
- 詩集月夜の牡丹 山村暮鳥著 定價金七十錢 送料金六錢
- 新訂萬葉集 松村英一校訂 定價金一圓八十錢 送料金十錢
- 歌と人 石川啄木 西村陽吉著 定價金五十錢 送料金四錢
- 階級戦の一隅から 渡邊順三著 定價金八十錢 送料金六錢

★いさ下り送卸と法十券郵各共郵各し組・呈送本見版商各★

紅玉堂文庫

出版の營業
 小さなことも纏った
 著作を集めて低廉
 な価格と携帯に至
 便な書物を作りた
 いと思ひました。
 そして得るに従つ
 て續々刊行するこ
 いふ方針です。故
 に譯め何が出るこ
 いふ豫告をしませ
 ん。追々に此文庫
 の冊数が増んで行
 き、百になり千に
 なつてゆくうちに
 本文庫の眞價が明
 瞭になることと思
 ひます。(紅玉堂主
 八五〇)

啄木歌集 石川啄木著 定價金一圓 送費金六錢

歌の作りやう 窪田空穂著 定價金七十錢 送費金六錢

作歌問答 窪田空穂著 定價金八十錢 送費金六錢

改現代短歌用語辭典 松村英一編 定價金一圓三十錢 送費金八錢

詩けぢれた王座 繩田林蔵著 定價金五十錢 送費金四十錢

自由詩の作り方と鑑賞 井上康文著 定價金一圓 送費金六錢

良寛・元政愚庵選集 野々村修瀧著 定價金五十錢 送費金四十錢

啄木の詩と其解説 佐藤寛著 定價金一圓 送費金六錢

メモアズンヤロツクホルムス

A・コナン・ドイル作
 藤原時三郎全譯
 ホルムスの思ひ出

内容

○傑作○安色い顔○紳士店員○グロリア、スコット嬢○マス
 グレイン家の謎式○レイダートの地主○邪悪の人○家附き思
 考○希羅語直譯○海軍條約文書○最後の問題

四六總洋布裝幀
 本文三二〇頁
 定價一圓五十錢
 送費十錢

ニエウアラランビアンチナイト

R・L・スチフンソン作
 桃井津根雄全譯

近代人はより多くの部分とより多くの「コチン」を要求する。情氣と退
 却との外何物も與へない平凡極まる小説や物語に倦怠した近代人は、轉
 じて本書を讀み給へ、其處に展開された怪奇なロマンスの世界により多
 くの部分とより多くの「コチン」を見出すであらう。情氣満々たる在來のロマンスの類型を破つて清新な新浪漫
 派を唱へたス氏の變態的な描寫は讀者を最後の二頁まで離かせずには置かない。本書は又忠實な全譯であるから
 原書と對照して讀まれる方の參考書となる。

四六總洋布裝幀
 本文四〇〇頁
 定價一圓五十錢
 送費十錢

A・コナン・ドイル作
 桃井津根雄譯
 スタダイン・スカアレツト

定價一圓二十錢
 送費八錢

目書刊近郎楠本楨

■ 歌集 婆の歌 (五月上) 四六版約百三十頁 定價五十錢

無産者歌人衰奮の一巻だ。彼の滿ち溢れた階級的熱情は創作に評論だ、児童文學に、詩に歌にまで奔流して盡きる事を知らぬ。讀め！彼の第一歌集を！

■ グロリア詩・童謡の講話 (六月上) 四六版約二百頁 定價八十錢

言々句々これ皆武裝せる文字だ。久しく滯留されたるプロレタリア詩への入門書初めて茲に公開される！讀め！

■ グロリア 兒童遊戯と童謡・唱歌 (六月下) 四六版約五十頁 定價三十錢

労働少年、所謂海外のピョートル達の遊戯と唄、及び其詩・唱歌・闘争歌等を、歌曲と共に纏めたもの、組合の指導者、詩人、音楽家、児童文學者必読の書！

■ 論 近代尖端詩派研究 (七月中) 四六版約二百五十頁 定價一十圓

立憲派・未來派・イマジンズム・表現派・ダグイズム・超現實派等の近代異端詩の理論と作品とを掲げ、マルクシズムの立場から嚴正に批判した研究書！

ロシア大革命秘史

ロシア大革命秘史目次

- 一 はしがき
- 二 秘史はひもこかれた
- 三 血の日曜日
 - A. ストロフ政策と官政労働組合
 - B. ロシヤ社会主義労働黨の暴上げ
 - C. 林立する煙突からは一味の煙も出ない
- 四 怪物、レーニン
 - A. 大衆の名譽教授か、革命家か
 - B. 萬人パンを奪取するとき、一人の菓子を食ふを許さず
 - C. 流刑につぐ流刑のスクリーン
- 五 一九〇五年は暮れた！
 - A. 第三の別れ―組合名義
 - B. ロシヤ社会主義労働黨第三回大會
 - C. 新しき超國労働代表サウエイト
 - D. 三日経つた、モスクワの物は死んだ
- 六 議會の正體は？
 - A. 議會否議の歴のなかに
 - B. 聖所々々が軍隊で固められた日
 - C. 政府得意のとき、労働大衆はなにを
- 七 新たなる攻勢へ！
 - A. 恐怖手段の進行と、愚沙の五年間
 - B. ソンナ埃射殺事件について、飛行機、タンクの登場？
- 八 民衆は起ちあがつた。だが
 - A. 戦争―戦争へ！
 - B. 領袖一瞬―プロクラードを射し
 - C. パンを奪へよ！
 - D. 携筒の官制列車
- 九 Xは繼續された。最後の一人まで
 - A. XXをXXへ！
 - B. フロクシアフのXXをXXつた日
- 十 XXの層

前金申込み！ 振替東京二〇六六五紅玉堂へ 定價五十錢送料四錢

續々發禁二 フロクシアフ短歌集・歌集・心底の叫び 歌集九月一日發禁禁止さる。

著名三の木啄川石

啄木遺稿

啄木は後年一個のテロリストとして激越と熱線の時代人となつたが、青春時代の華麗な詩篇を多く遺した。その詩は多様な現

石川啄木は新歌壇第二の革命者也。彼は曾て短歌が歩まざりし大膽勇敏なる境を開き、詩歌の自由を主張し、自ら即ち彼

啄木は後年一個のテロリストとして激越と熱線の時代人となつたが、青春時代の華麗な詩篇を多く遺した。その詩は多様な現

石川啄木は新歌壇第二の革命者也。彼は曾て短歌が歩まざりし大膽勇敏なる境を開き、詩歌の自由を主張し、自ら即ち彼

啄木情詩集

啄木は後年一個のテロリストとして激越と熱線の時代人となつたが、青春時代の華麗な詩篇を多く遺した。その詩は多様な現

石川啄木は新歌壇第二の革命者也。彼は曾て短歌が歩まざりし大膽勇敏なる境を開き、詩歌の自由を主張し、自ら即ち彼

啄木歌集

啄木は後年一個のテロリストとして激越と熱線の時代人となつたが、青春時代の華麗な詩篇を多く遺した。その詩は多様な現

石川啄木は新歌壇第二の革命者也。彼は曾て短歌が歩まざりし大膽勇敏なる境を開き、詩歌の自由を主張し、自ら即ち彼

三六判上製
定價金七拾圓
送費金八錢

三六判上製
定價金七拾圓
送費金八錢

三六判上製
定價金七拾圓
送費金八錢

の口語歌 世紀 新短歌 前衛

よ見を歌のこ

著郎史藤後 著助孝村中

口語歌集 土の歌

問題藝術の域を越へた土から生れた農民の叫び

超へた土から生れた農民の叫び

問題藝術の域を越へた土から生れた農民の叫び

口語歌集 空に咲く花

口語歌の典型的作品として歌壇の祖上におくる

口語歌の典型的作品として歌壇の祖上におくる

四六新製フレツシュ
定價金七拾圓
送費金四錢

四六新製フレツシュ
定價金七拾圓
送費金四錢

新刊 現代口語歌辭典 松本仁編著

菊半葉二百五十頁美本定價一圓送費六錢

- 現代口語歌辭典は口語歌に現はれてゐる樞要な語句を五十音順に配列し解り良い解釋を施した猶その語句に對して名家の例歌をも明示してゐる。
- 現代口語歌辭典はこれから口語歌の道に進入る人は勿論、現在口語で作歌してゐる人も、その作品に現はれた語句に依つて明確に歌の境地とその歌材表現方法を知るに便利である。
- 現代口語歌辭典に收めた語は實に二千餘、例歌も二千餘首の多きに達してゐるから辭典であると共に、口語歌壇の一大選集とも言ひ得らる。
- 現代口語歌辭典の語句は主として成句より集めたため助詞助動詞を附したものが多し。これは初心者も直ちに解釋出来るやうに心掛けたのである。
- 現代口語歌辭典の語句の解釋は努めて平易にし、近代的香氣の高い語句及作品を輯録したるため現代的生命を充分に加味してゐる。ゆゑに現代口語歌辭典の出現は、口語歌壇の光明燈である。

石川啄木が一個の鬼才であつたことには異論がない。だが、彼が今日我々に働きかける力を持つてゐるのは、彼が新しい時代への轉向を示し、その先驅的な役割を爲したが故である。今日、歌壇に於て彼が指示したところのものを誤りなく繼承してゐるのは本書の著者であつて、その意味に於て著者の啄木評論は江湖の齊しく期待するところである。本書小冊子ながら啄木の眞面目を把握して、よくこれを祖述す。啄木愛好者の見送すべからざる「知己の書」である。

西村陽吉著

歌と人石川啄木

東京 紅玉堂 版

紅玉堂文庫の

定價五錢 送費四錢



紅玉堂。パンフレット贈呈

(この廣告を切りとつてお送り下さい。)

左記へ住所姓名を御記入の上、紅玉堂書店へ二錢切手封入の上お申込下さい。但し本券一枚に就き一冊。御希望の書名の上へ○印をつけて下さい。

書名

新短歌作法
短歌表現の研究
歌書の話
古今名家歌人小傳
歌よみ

住所

姓名



終